

社会福祉法人尾道さつき会 尾道福祉専門学校
令和5年度 第2回教育課程編成委員会議事録

1. 日時 令和6年2月9日(金) 15:30~16:30

2. 場所 尾道福祉専門学校 オンライン会議

3. 出席者

社会福祉法人泰清会 サンライズマリン瀬戸 施設長 久保田あけみ氏

株式会社ゆず 代表取締役 川原奨二氏

広島国際大学 健康科学部 客員教授 久保田トミ子氏

尾道福祉専門学校 校長 邑岡志保

尾道福祉専門学校 教務主任 金子清美

4. 報告事項

(1) 学生動向について

○2024年度の入学予想と卒業見込生の状況、外国人留学生について

2024年の入学生の状況について説明。インドネシア人留学生が入学予定。今後、積極的に受け入れていく方向で、情報収集を進めていく。新卒者の状況では、合理的な配慮を必要とする学生がおり、本人と教員とで密にコミュニケーションをとりながら方法を検討していく予定。

(2) 2023年度後期教育課程状況

○2023年度後期授業の実施経過について

- ・2023年度後期授業では、感染対策目的のオンライン授業はなかった。年末にインフルエンザの感染者が数名あったが、発症時期はそれぞれずれていたため集団感染には至らなかった。
- ・1.2年生の実習報告会では、オンラインを活用し、多くの実習指導者が参加され、直接感想をいただくことができた。
- ・また、多種多様な機関の方のご協力を得て授業展開ができた。1年生の授業では、「おのみち見守り訓練」を実施し、法人内事業所である「にしごこの家」の利用者も参加され、尾道市社会福祉協議会やキャラバンメイト、尾道市西部地域包括支援センター、グループホームなでしこ、居宅介護支援事業所こねくとの職員、西迫地区住民の皆様から、実践的な学びの機会をえることができた。
- ・介護の日のイベントとして、福山市の障害者関係が発祥のユニバーサルなフットベースボールの競技を尾道ふくしむら内グラウンドで実施したり、ゲームや飲食を楽しみながらクリスマス会を開催したり、1.2年の学生が交流して楽しむ行事が開催できた。

○2024年度の行事予定について

コロナ5類移行後とはいえ、感染予防対策を講じている状況。2024年度は、2023年度とほぼ同様の行事予定としているが、4月にはオリエンテーションでの全学生交流行事を計画しており、学校内外の活動を広げていきたいと考えている。交流や楽しみとなる行事は、学習へのモチベーションを高めていくものと思っている。

○2024年度授業課程進行表について

- ・2023年度同様の内容。
- ・介護実習では、2年生の実習Ⅰ-③を9日間から12日間とし、実習Ⅱを24日間から21日間に変更した。理由は、9日間が実習期間として中途半端との意見があることと、実習Ⅱの長期期間の負担軽減を図る為である。

(3) 意見交換

川原様) 授業でもパソコンを使用出来たらよい。

校長) 在校生に、各自パソコンがそろえられるかのアンケートを行った。パソコンを整える方向でいきたい。実習記録もパソコン入力の方で整備着手し、県内他校との横連携もできればと思っている。

川原様) 人材確保で動いている。N2相当の外国人を個別に尾道福祉専門学校に紹介したいと思っている。資格を取りたい外国人も多い。尾道福祉専門学校には人を育ててほしいと思っている。

久保田ト様) 今年4月～東広島地域で介護福祉士の専門学校(アジア介護福祉士専門学校)設立を予定しており、現時点で12名の入学が決定している。ネパール人が多い。日本語学校の修学資金もかかっているため、専門学校における学資の後押しが欲しいところ。ただ日本語力が課題の人もいるが、介護の現場はコミュニケーションが必要であり、日本語力を伸ばす機会にしたい。

川原様) 現在他法人・事業所の感染対策はどのような状況か。

久保田あ様) 施設で対応の幅が大きいと思われる。施設裁量で対応している。

久保田ト様) ある程度免疫を付けて付き合っていく。制限を極力少なくし、生活の質を上げていくことを考えていきたい。

(4) まとめ

校長) 体験して学ぶことを目的に、行事や授業展開を考えて取り組んできた。地域の方との認知症の見守りの取り組みへの参加や事業所に出向いてのレクリエーション等の活動を行ってきた。新年度も体験して学生個々の力を伸ばしていきたい。